

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に2006年11月に設立されました。また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	10
➤ 会議・イベント案内	11
➤ 書積等の紹介	11
➤ 会員募集中	12

巻頭書記

JRRN 事務局のある東京では、すっかり葉桜となり、新緑が水辺を美しく彩っています。桜の後は、本格的な川遊びのシーズンが幕開けです。

このゴールデンウィークには、南はたまた国外で過ごされる方もおられるかと思えます。水辺は時に危険を伴う場所です。事故等のないようお過ごし下さい。

北海道、東北にお出かけの方は、今週末から桜が見

頃となるようです。桜で彩られた美しい水辺を堪能されてはいかがでしょうか。水辺を楽しむとともに、JRRN 事務局に春の水辺の写真をご提供いただければ幸甚です。

今年度も JRRN は会員の皆様に有益な河川再生の情報発信を目指してまいります。皆様には情報提供等のご支援の程、どうぞよろしくお願いいたします。

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

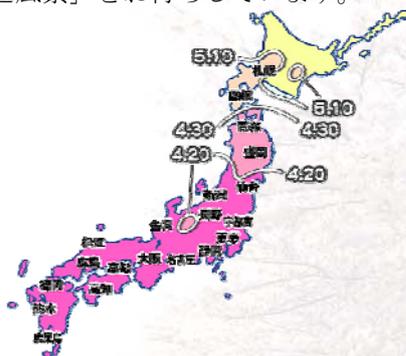
『桜のある水辺風景 2012』写真募集中(5/31〆切)

今年も短い桜の時期を終えようとしています。その場所、その瞬間の素晴らしい風景が届けられています。皆様のお手元の写真に「桜のある水辺風景」はありませんでしょうか？

まだ桜が咲いている地域の皆様、是非春の水辺に足を運んで、自分だけの風景を切り取ってみてはいかがでしょうか？東北地方、北海道は今が見頃です。

是非水辺に足を運んでいただき、美しい春の水辺を堪能いただくとともに、全国の会員にその水辺の写真を届けてはいかがでしょうか？

さらに多くの方々の水辺への関心が高まるきっかけになることを期待し、全国各地の会員の方々からの「桜のある水辺風景」をお待ちしています。



桜の開花予想 (出典：日本気象協会 HP)

応募要領

- ・ **テーマ**：『桜のある水辺風景 2012』
- ・ **応募資格**：JRRN 会員または会員登録予定の方
- ・ **応募作品**：2012 年に撮影された桜のある水辺の写真
 - *応募者ご本人が撮影され、未発表のものに限ります。
 - *応募は一人何点でも結構です。
 - *写真に込めた皆さまの思いをコメントとして添えて下さい。
- ・ **応募方法**：「応募シート」に必要事項を記入し、JRRN 事務局までお送り下さい。
- ・ **応募期間**：2012年3月1日(木)～5月31日(木)
- ・ **応募作品の取り扱い**：お寄せいただいた写真は、応募期間終了後に写真集『桜のある水辺風景 2012』としてとりまとめ、HP で公開するほか、JRRN ニュースレター等、JRRN の刊行物で紹介させていただきます。

◆詳しい応募要領はコチラ (PDF 400KB)

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/JRRNsakura2012.pdf>

◆『桜のある水辺風景』

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>

(JRRN 事務局・伊藤将文)

JRRN 事務局からのお知らせ(2)

JRRN ウェブサイトのリニューアルのご案内 (www.a-rr.net/jp/)

JRRN 事務局では、2007 年 8 月に開設しました JRRN ウェブサイトを、本年 4 月に約 4 年半ぶりにリニューアルいたしました。

今回のリニューアルでは、約 4 年半のサイト運営期間中に利用者の方々から頂いたご意見や、2011 年 2 月に JRRN 会員皆様に実施させて頂きましたアンケート調査結果※を踏まえ、以下の 2 点を重点的に、サイト全体の改善を図りました。

※ <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/category/questionnaire>

<今回の改善ポイント>

①日本一の河川再生情報源（データベース）に相応しいユーザー利便性の改善・強化

- メニューバー改善による、目的に応じた必要情報へのアクセス性向上
- JRRN 会員からのお知らせや JRRN 活動成果を明確に伝えるためのサイト内表示方法の改善
- 河川再生に関わる情報源を「河川再生ライブラリ-」として体系的に整理

②JRRN 会員相互交流機能の強化

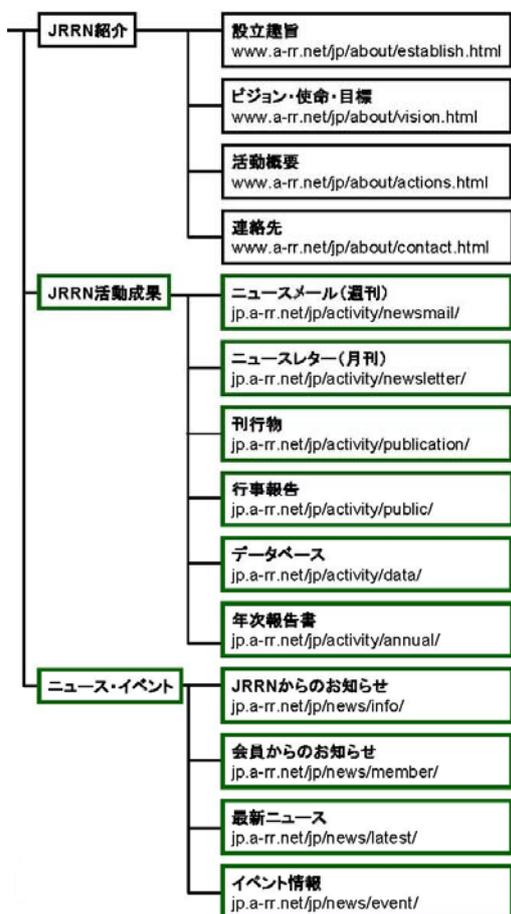
- facebook や twitter 等のソーシャルネットワーク機能を掲載
- 個別記事への評価、コメント入力機能を掲載



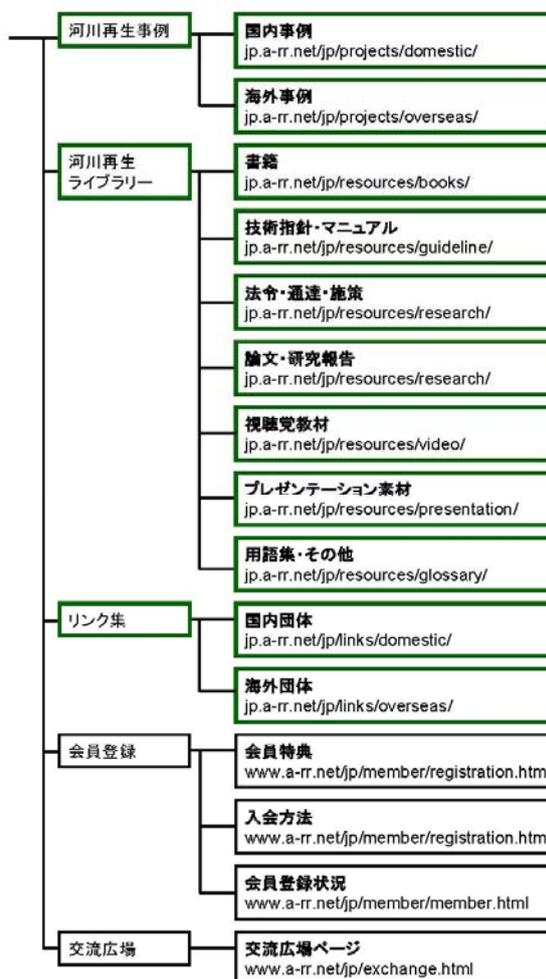
河川再生に関わる情報共有と交流の更なる活性化に向け、本ウェブサイトをご活用頂ければ幸いです。

また、「河川再生なら JRRN」と社会に認められるウェブサイト構築を目指し、継続的な情報更新と更なる改善を進めて参ります。

(JRRN 事務局・和田彰)



リニューアル後のサイトマップ



会員寄稿記事(1)

巡回企画展「ゲリラ豪雨に備える」～ 4月21日(土)から5月27日(日)まで「龍Q館」にて開催中

寄稿者：吉富友恭（東京学芸大学准教授、水の巡回展ネットワーク代表・JRRN 会員）

ゲリラ豪雨、1時間に30ミリの雨、ニュース等で聞いたことはあっても上手くは説明できない雨の現象や防災のポイントについて、わかりやすく解説する展示が公開されました。

水は私たちの生活にとって貴重で欠かせないものですが、時には私たちの生活に大きな影響を及ぼすこともあります。ゲリラ豪雨による河川の急な増水によって、何人もの命が失われたことは、みなさんの記憶にも新しいことと思います。

多くの人に雨の大変さや怖さを伝え、危険を察知するために大切なことは何なのかを考えてもらうため、ゲリラ豪雨をテーマにした新しい展示が企画されました。

実際の雨の状況を臨場感あふれるサウンドで聴ける展示等、体験的な手法も取り入れられています。



聴き雨展示

この展示は、大学の学生や教員、気象キャスター、展示プランナーやデザイナー、国土交通省の職員等の有志のメンバーからなる「水の巡回展ネットワーク (jawanet)」によって企画・開発されました。

水の巡回展ネットワークでは、水に関する様々なテーマの展示ユニットを開発し、それらを全国各地の川の資料館や博物館に巡回します。巡回の機会を利用して調査を行いながら、多くの場所で活用できる、汎用性の高い、楽しく学べる展示を創造していくことを目的に活動しています。



「ある夏の日」からスタート

この企画展は、ゲリラ豪雨の発生から収束を下校中の小学生の行動をたどりながら紹介する絵本のような展示から始まります。そして、雨の降る仕組みやゲリラ豪雨と集中豪雨の違い、身を守るためのポイントについて図解したパネル展示のコーナーへ。



設営作業の様子



パネルと映像展示

後半では、豪雨による河川の増水やその体験談を収めた映像展示、雨つぶのかたちクイズ等が用意されています。他にも、降った雨の重さを体感できる展示、

展示は龍Q館（埼玉県春日部市）から巡回をスタートし（国土交通省江戸川河川事務所、春日部市主催）、今年は各地の川の資料館を中心に5、6館での開催を予定しています。開催期間中には、ワークショップや講演会等の行事も行っていく予定です。

■詳しくは以下をご参照ください。

http://www.a-rr.net/jp/jawanet/01_01.html

※この巡回企画展は（財）河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けています。



川系男子の『川と人』めぐり No.1 ~筑後川~

坂本貴啓（筑波大学大学院博士前期課程生命環境科学研究科 白川直樹研究室『川と人』ゼミ）

『川と人』 めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きでしようがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

1. 春の訪れとともに

筑後川の堤防沿いに菜の花と桜が咲く頃、筑後川を訪ねた。流路延長 134 km、流域面積 2,860km²、流域人口は 111 万人の九州一の大河である。僕の母親はこの流域の出身で、筑後平野でとれた農作物と有明海の幸を食べて育った話を聞いたことがある。

筑後川に行くにあたっては経緯があった。とある冬の日の研究室での一幕。「先生、福岡の川は周ったことありますか?」「時間をかけて周ったことはあまりないなあ。」「僕、地元なので、いらした時にはご案内しますよ!」「坂本くんが在学している間にぜひ行きたいなあ。」「じゃあ、桜と菜の花の咲く頃にぜひ。」このやりとりで今回の筑後川めぐりが決定した。それから冬の間はデスクワークに勤しみ、春が来るのを待った。福岡ではちょうど桜が満開を迎えた 4 月 4 日、先生は福岡にやってきた。3 泊 4 日のスケジュールで筑後川⇒遠賀川⇒北九州市の川（板櫃川・紫川）をめぐるプランだ。それぞれの川をめぐるときにはそれぞれの案内人に説明をしてもらったので、その人らも一緒に紹介したいと思う。夕方に福岡空港を出発し、久留米市へ向かい筑後川の案内人を訪ねた。

2. 日本唯一の川図書館と歩く生き字引

久留米市高野。筑後川河川事務所や（独）水資源機構福岡導水事務所の近くに古賀邦雄さんの自宅がある。しかしただの自宅ではない。ここは「古賀河川図書館」と言われており、川や水に関する書籍が 1 万冊以上ある(写真 1)。川や水の本でここに対抗できるのは国立国会図書館くらいだろう。古賀さんはもともと水資源公団（現水資源機構）にお勤めで、仕事の傍ら、書籍を集め、私費で集めた本は 8 千冊を超える。転勤族でありながら、月日とともに増えるこの本を背負って引越すのはさぞ大変だっただろう。

2001 年に早期に退職されたのを機に、自宅を図書館とし、開放された。図書館ができてからは全国から、研究者、行政、市民団体、学生、漁協など様々な人が訪れている。また訪れる人の他にも、本を寄贈したいと申し出る人からの電話が後を絶たない。ホームペー

ジも充実しており、書籍の検索データベース、今月の新蔵書のコーナー、碑文が語る筑後川など個人管理の HP としては非常にコンテンツが多い。最近では古賀河川図書館文献研究会をつくり、全国から会員を募っている（詳しくは古賀河川図書館まで）。

まだ行ったことがない方はぜひ足を運んでいただき、本の多さに圧倒されてほしいし、余りのある川や水に関する書籍などは寄贈していただければと思う。そしてなによりこの図書館の主宰である古賀さんにぜひお会いになっていただきたい。古賀さんそのものがデータベースシステムのような方で、一言「筑後川」などと言うと、筑後川に関する本の紹介や筑後川の水管理の状況など解説付きで検索結果が返ってくる歩く生き字引なのでぜひお話をされると楽しいと思う。



写真 1 1 万冊以上の蔵書をもつ古賀河川図書館

3. 河口（昇開橋とデ・レーケの導流堤）

さて、そんな古賀さんの案内でまず向かったのは筑後川の河口。車の中で組曲「筑後川」（作詞：丸山豊、作曲：團伊玖磨）を聞きながら、河口を目指す。夕暮れ時の筑後川の土手を走りながら、「♪フィナーレをこんなにはっきり予想して～（最終楽章「河口」より）」の歌詞が流れると河口が近づく感激も一入だ。

着いたのは昇開橋。昇開橋は 1987 年に廃線となった国鉄の佐賀線の鉄橋であり、現在は国の重要指定文化財として保存されている。行き着いた時には夜だったが、観光用にライトアップされており、川の真ん中に赤い橋が浮かび上がっていた（写真 2）。橋の真ん中から下流を望んだ。本来ならここに明治時代のオラン

ダム技術者、ヨハネス・デ・レーケが設計した導流堤がみえるはずだが、この時間はちょうど満潮で中央のポールの先の青いライトしか見えなかった。構造物自体は見えなかったが、導流堤としての本来の機能を發揮している時間帯だと思うことにし、ここから河口まで6kmにおよぶ導流堤は心の目で感じ取ることにした。



写真2 夜の昇開橋（橋下流にはデ・レーケ導流堤）

4. 有明海の珍味

導流堤をみたあと、久留米市へ引き返した。ここで夕食をとる。せっかく筑後川の河口をみたので、有明海の海の幸をと、古賀さん行きつけの有明海の珍味を出してくれる店へ。テーブルには次々と有明海でとれたちょっと変わった食材が並ぶ（写真3）。クツゾコ、メカジャ、ワラスボ、ワケンノシンノスなど聞いたことのないものばかり。店員のお兄さんが魚介類の生態や名前の由来など資料や現物とともにわかりやすく説明してくれた。ワケンノシンノスというのはイソギンチャクのことだが、こりこりと食感がよく、特においしかった。イソギンチャクはほとんどのものに毒があり、食用には向かないが、この種は砂の中で生息する変わった生態をもっており、食用として用いられるのだという。ワケンノシンノスの名前の由来をお兄さんが説明してくれたが、恐ろしすぎてここには書けないので、実際に食べに行かれた時に聞いていただきたい。あと、くれぐれも久留米市内でこの言葉を連呼しないようにとの忠告をうけた。有明海の珍味に舌鼓を打ち、風土料理を満喫した夕食だった。



写真3 有明海の珍味（ワケンノシンノス）

5. 河川図書館の夜なべ談義

今夜は古賀さん宅にお世話になることに。古賀さん宅に戻ってきた時には既に23時を回っていたが本番はこれから。本に囲まれての夜なべ談義をはじめた。今日巡ったデ・レーケの導流堤の話や明日行く上流のダム群の話、筑後川四大井堰の話など、話はあとを絶たない。古賀さんがふと、「坂本さん、ご自身の地元の川の地図が描けますか？」と言われ、思い出しながら書いてみることに。大きな支流まではかけるが、小さな支流、堰の位置などあいまいな部分が多い。すると古賀さん「手で地図が描けるようになることがその川を体系的に理解する一歩になると思うんです。これは私が描いたものです。」と古賀さんが手書きで描かれた筑後川の地図を取り出した（写真4）。手書きといえども、情報が細かい。流路はじめ、ダム、堰、導水路、河口からの地点距離などポイントが抑えられており、場合によっては筑後川管内図より見やすい。このやり方はその川を知る上で非常に頭にはいつてくるので、今度からまず川を描いてみることにしよう。夜なべ談義は日付が変わるまで続き、本に囲まれて夜は更けていった。

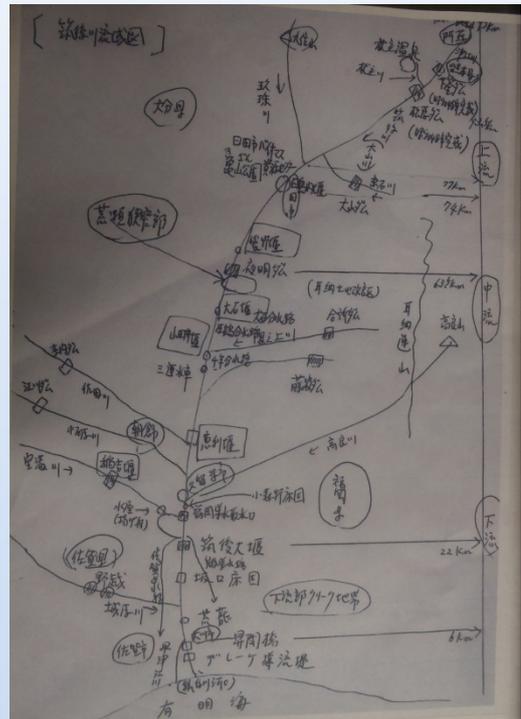


写真4 古賀さん手書きの筑後川流域図

6. 2人目の案内人

目が覚めると本に囲まれた部屋だった。「おはようございまーす。」支度をしていると玄関が開いた。今日上流まで連れて行ってくれる堤幸良さんだ。堤さんは昭和28年水害を筑後川で経験された方で現在は筑後川下流部のみやき町の町史の編纂をされてい

て、洪水史を担当されている。筑後川のことを色々調べているうちに河川図書館を訪ね、古賀さんともお知り合いになったという。古賀さん、堤さん、先生と僕の4人で上流に向け出発した。

7. 碑文が語る筑後川 貝を供養した碑

久留米市宮の陣付近の筑後川の旧河道のそばに石碑が建っている。「宮入貝供養碑」と書いてある。もともとのあたりには、ミヤイリガイという貝が生息していた。しかし、人間が川で遊んだり、泳いだりすると、この貝を中間宿主とし人間に感染する「日本住血吸虫症」という感染症が拡大したため、水路への薬の散布や河川改修、湿地帯の改善、水路のコンクリート化など様々な対策がなされ、昭和58年に撲滅を果たした。ミヤイリガイの生息が確認された最後の地ということで、供養碑が建てられた（碑文が語る筑後川参照）（写真5）。碑にはこう記されてある。

宮入貝供養碑(生息最終確認の地)

我々人間社会を守るため筑後川流域で人為的に絶滅に至らされた宮入貝(日本住血吸虫の中間宿主)をここに供養する。

平成2年(西暦2000年)3月建立

筑後川流域宮入貝撲滅対策連絡協議会

実は堤さんも幼少期に日本住血吸虫症に感染したことがあるそうで、現在は完治をしているが今も腹部に充血吸虫の遺骸が一部残っているという。堤さん曰く、このあたりは湿地帯だったそうだが、改修ですっかり変わってしまったそうだ。

貝を供養した碑をみるのははじめてであったが、人々が風土病に悩まされていて、深刻な問題だったのでよくわかる。



写真5 宮入貝供養の碑

8. 今に伝える水利施設 筑後川四大井堰

久留米市内を離れ、川沿いを上流に向けて走る。菜の花と桜堤が筑後川の春を演出している。今回の筑後川の目的の一つに江戸時代につくられた四大井堰をみることにある。下流から順に恵利堰、山田堰、大石堰、袋野堰だ。(袋野堰は夜明ダムにより現在は水没しているものの、夜明ダムの湛水区間であるため、袋野堰の取水口からは現在も取水されている。)

個人的には井堰の中で最も見応えがあった山田堰(朝倉市)を紹介したい(写真6)。山田堰は1790年に完成した石組みによってつくられた堰で、形態は筑後川を斜めに半分ほど締め切った斜め堰である。この堰の技術は現在アフガニスタンでも使われているという。ペシャワール会の医師の中村哲さんは医療支援だけではアフガニスタンの衛生環境改善に効果が薄いことから、インフラ整備の必要を訴えており、その改善策の一つとして、洪水にも強く、現地の人でも造築可能な山田堰の構造が採用されたようだ。

ODA等で最新の技術・素材でインフラ整備支援をするのは容易かもしれないが、現地の人々が後々持続可能なメンテナンスをしていけるように、伝統的な土木技術で支援することは大変価値があると思う。この堰から取水された水は堀川用水として、流れていく。しかし、用水より高い位置に土地が広がっているため、水を引くのは大変な問題であったが、水流を利用し、自動回転の水車が開発され(1722年)、高地への水のみ上げが可能となった。これが国の重要指定文化財に指定されている『朝倉の三連水車』である(写真7)。今回は農閑期であったため骨組みだけで回転していなかったが、灌漑期には12haの農地を潤している。当時の高い利水技術に感銘を受けつつ、さらなる上流を目指した。



写真6 山田井堰



写真7 農閑期の三連水車

9. 天領 日田と水

筑後川をさらに上流に遡ると日田市に入った。このあたりでは筑後川は三隈川と呼ばれる。日田は江戸時代、天領として栄え、商業の街として賑わい、その名残が今でも残っている。すぐ上流から玖珠川や大山川が合流してくるため、水が豊富であり、町の中にも水路が巡っている。お昼も回ったので豆田で昼食。ここは鰻料理が有名で、創業 150 年の老舗で鰻のせいろ蒸しに舌鼓を打った。

昼食後も日田のまちを散策。ここは古賀さんが水資源公団にお勤めだったころ、仕事でよく来ていたらしく、「ここの料理がおいしい」とか、「あそこの女将さんに仕事でお世話になった。」とか色々と思い出のある町のような。散策しながら、筑後川の展示のある日田出張所内の『朝霧の館』を訪ねた。ここの屋上からは筑後川の3川分派が見渡せた。川沿いには温泉街が広がり、川岸には鵜飼の船が停留しており、まさに水のまちにふさわしい景観であった(写真8)。



写真8 筑後川分派地点

10. 上流ダム群

日田市街地を出発し、さらに上流を目指す。上流には大山ダム(試験湛水中)と松原ダム、下笠ダムがある。

大山ダムは筑後川の支流の赤石川の支流、(独)水資

源機構が建設中の重力式コンクリートダムである(写真9)。

このダムは清流バイパスを設けており、ダムの上流の濁度のない水を直接ダム直下にする施設である(写真10)。これは筑後川の水環境への影響を考慮したものであり、全国的にも珍しい取り組みである。この清流バイパスがどの程度、ダムの影響を緩和する効果があるかは定かではないが、今後のダム直下流の河川環境を改善する一策として期待したい。まだ工事中であったため、ダムサイトには入れなかったが、完成後にまた来たいと思う。ちなみにここでもダムカードをいただいたが、カードには『大山ダム(建設中)』と表記されており、今だけの限定カードになりそうだ。

本川に戻り上流を目指す。このあたりでは筑後川は大山川と呼ばれている。このあたりの川をみると、岩盤が露出しており、川幅に対して流量が少ないような印象をうける。このあたりは上流に松原ダムがあり、減水区間になっているようだ。



写真9 大山ダム(試験湛水中)



写真10 ダム上流の清流バイパス取水口

松原ダムに到着。総貯水量 5,460 万 m^3 、堤高 83m、堤頂長 192mの大規模なダムである。しかし時間の関係で一瞬だけ目におさめ、ダムカードを管理所でもらってすぐに上流へ。本日最後の目的地、筑後川流域最大の下笠ダム(総貯水量 5,930 万 m^3 、堤高 98m、堤

頂長 248m)である(写真1 1)。松原ダムのすぐ上流に下笠ダムがあり、この下笠・松原の2ダムで筑後川流域の大半の水を貯蓄する。

ダムが一望できる高台に上るとアーチ式ダムの全体像がみえる。高台からダムを見下ろしながら古賀さんが静かに話しはじめた。



写真1 1 高台からの下笠ダム

そんな石碑をみて、今回の筑後川めぐりの旅は終了した。最後に『組曲筑後川 河口』の一節を引用して、筑後川めぐりに幕を閉じたい。

「筑後平野の百万の 生活の幸を 祈りながら 川は下る
有明の海へ」



写真1 2 室原知幸さんの碑

1 1. 公共事業は法に叶い、理に叶い、情に叶うものであれ

昭和 28 年(1953 年)の大水害を受けて、建設省九州地方建設局(当時)は下笠ダムの建設に着手する。しかし、測量に支障となる樹木の伐採をめぐり、地元住民の中心であった室原知幸氏らと些細な補償問題が起き、それをきっかけにして地元と行政側の関係はこじれていった。地元はダム反対でまとまり、対立は激化していき、ダム予定地に住民が交代で座り込みをし、建設阻止をはじめた。これが世に知られる蜂の巣城紛争である。下笠ダムの右岸側に砦を築き、斜面に有刺鉄線を張り、その光景はまさに蜂の巣であったという。室原さんらは自身らの墳墓の地を失いたくないとの思いから反対の意志を貫いたが、行政代執行により、砦は撤去され、ダム建設は進められていった。その後、室原さんは 1970 年 6 月 29 日に心筋梗塞のため死去。その年の 10 月末には和解が成立する。

今は山中にひっそりと構えている下笠ダムであるが、今自分が建っているこの場所にそんな悲しい歴史があったとは知らなかった。その時のことを忘れないためか、ここのダム湖の名前は「蜂の巣湖」と書いてある。古賀さんはさらにダム下流の山林の中に案内した。「ここは室原家のお墓です。ここに碑が建っているのです、この碑を読んでみてください。」碑にはこう記されていた(写真1 2)。

現在の河川事業は本当に法に則ったものであるか、本当に理に叶った事業がなされているか、住民への情をもって仕事ができているか。この言葉は非常に重い。

【筆者について】

坂本 貴啓(さかもと たかあき)

1987 年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代には YNHC(青少年博物学会)、大学時代では JOC(Joint of College)を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。

筑波大学大学院 博士前期課程 生命環境科学研究科 環境科学専攻在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『郊外の湖沼・河川流域における社会変化に伴う流域管理のあり方に関して』と題し、流域の水質・水量の将来予測や河川市民団体の特性について研究中。最近のお気に入りには川の立体地図やダムカードを集めて眺めること。



水辺からのメッセージ No.36

国土文化研究所 特任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

美観地区に相応しいつらえ：
400年近く前から都市の文化的価値を理解してきた先覚者たちの思いを継承する



撮影：2012年4月（岡山県・倉敷市）

◆掘割の石積みを低く揃える

かつて舟の荷降ろしに使われた水際の小段は、美観地区の魅力づくりに大きく貢献しています。川沿いの植栽樹木の根元が人に踏まれずに保護されます。また道を歩く人が水面に直接落ちることなく安心感が生まれます。景観的には水際が単調にならずに彫りの深い表情が生まれます。倉敷の美観地区がテーマパークなどと違う点は、そこに大原財閥や倉敷商人の履歴が色濃く残されていることです。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ(2012 年 4 月末までの提供分)

【JRRN 会員からの提供情報】

■『活動展示&生物多様性講座 PART1』(5/12-13 開催)

愛魚家・宇地原様より御提供頂いたイベント情報です。

- 主催：なごや生物多様性センター
- 日時：2012 年 5 月 12 日～13 日
- 場所：なごや生物多様性センター



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/569.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■『生物多様性シンポジウム～みんなで考える倉敷の生きものとの私たちのみらい～』(6/2 開催)

倉敷市より御提供頂いたイベント情報です。

- 主催：倉敷市、(財)自治総合センター
- 日時：2012 年 6 月 2 日(土)
- 場所：水島愛あいサロン(倉敷市環境交流スクエア)



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/580.html>

【海外からの提供情報】

■『1st Philippine International River Summit』(5/30-6/1 フィリピン国イロイロ島開催)

主催者である Iloilo 市長より行事案内を頂きました。

- 主催：フィリピン国 Iloilo 市 他
- 日時：2012 年 5 月 30 日(水)～6 月 1 日(金)
- 場所：Centennial Resort Hotel and Convention Center

◆詳細は以下参照

<http://internationalriversummit.com/>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「河川文化を語る会」

JRRN 団体会員である公益社団法人日本河川協会から河川文化を語る会のご案内です。

【第 167 回】

- ◆テーマ：「金子みすゞさんのうれしいまなざし～ながれの岸で“いのち”を思う～」
 - ◆講師：草場睦弘(くさば むつひろ)氏 (金子みすゞ記念館 主任兼企画員)
 - ◆日時：2012 年 5 月 12 日(土) 14:00～16:00
 - ◆場所：山口県健康づくりセンター(山口市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/551.html>

【第 168 回】

- ◆テーマ：「いきものから知る都市河川の変化」
 - ◆講師：福嶋悟(ふくしまさとし)氏 (藻類研究所分析センター センター長)
 - ◆日時：2012 年 6 月 4 日(月) 18:00～20:00
 - ◆場所：厚生会館(全国土木建築健保)(東京都千代田区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/553.html>

【第 169 回】

- ◆テーマ：「東日本大震災で考えたこと～400 万人が住む東京・名古屋・大阪のゼロメートル地帯が危ない～」
 - ◆講師：青山俊樹(あおやま としき)氏 (公益社団法人 日本河川協会 理事)
 - ◆日時：2012 年 7 月 23 日(月) 18:00～20:00
 - ◆場所：厚生会館(全国土木建築健保)(東京都千代田区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/564.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「巡回企画展『ゲリラ豪雨に備えて』案内

※P3「会員寄稿記事(1)」もご参照ください。
東京学芸大学・吉富先生より御提供頂いたイベント情報です。

【開催館】龍Q館(首都圏外郭放水路 庄和排水機場) 1 階ロビー

【開催期間】平成 24 年 4 月 21 日(土)～5 月 27 日(日)

【休館日】月曜日

【開館時間】9:30～16:30(入館は 16:00 まで)

【主催】国土交通省江戸川河川事務所、春日部市

【企画制作】水の巡回展ネットワーク(jawanet)

【展示内容】

ストーリー展示(ゲリラ豪雨発生から収束)、解説パネル展示、河川の増水等の映像展示、聞き雨展示、雨の重さの体験展示等。開催期間中、降雨体験車によるゲリラ豪雨体験や気象キャスターの講演等のイベントを予定。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/558.html>



会議・イベント案内（2012年5月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）

現在企画中

（その他の河川再生に関する主なイベント）

■巡回企画展「ゲリラ豪雨に備えて」

○日時：2012年4月21日（土）～5月27日（日）
○主催：国土交通省江戸川河川事務所、春日部市
○場所：龍Q館（首都圏外郭放水路 庄和排水機場）
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1359.html>

■東京ホテル TOKYO HOTARU FESTIVAL 2012

○日時：2012年5月5日（土）～6日（日）
○主催：東京ホテル 実行委員会
○場所：隅田川テラス（言問橋～吾妻橋間）
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1399.html>

■シンポジウム 東京の川をひらく

○日時：2012年5月6日（日） 12:30-16:30
○主催：東京ホテル 実行委員会
○場所：墨田区リバーサイドホール
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1403.html>

■第167回河川文化を語る会『金子みすゞさんのうれ しいまなざし～ながれの岸で“いのち”を思う～』

○日時：2012年5月12日（土） 14:00～16:00
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：山口県健康づくりセンター（山口市）
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/989.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に向けた様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。（JRRN事務局）

■なごや生物多様性センター「活動展示&生物多様性講座 PART1」

○日時：2012年5月12日（土）～13日（日）
○主催：なごや生物多様性センター
○場所：なごや生物多様性センター
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1379.html>

■生物多様性シンポジウム～みんなで考える倉敷の生きものと私たちのみらい～

○日時：2012年6月2日（土）13:00-16:30
○主催：倉敷市、財団法人自治総合センター
○場所：水島愛あいサロン（倉敷市環境交流スクエア）
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1395.html>

■第168回河川文化を語る会『いきものから知る都市 河川の変化』

○日時：2012年6月4日（月） 18:00～20:00
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：厚生会館（全国土木建築健保）
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/991.html>

■第169回 河川文化を語る会『東日本大震災で考えた こと～400万人が住む東京・名古屋・大阪のゼロメ ートル地帯が危ない～』

○日時：2012年7月23日（月） 18:00～20:00
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：厚生会館（全国土木建築健保）
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1364.html>

書籍等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2 （2012.2 発刊）

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- ・監修：ARRN 技術委員会
- ・編集：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・価格：無料



※本冊子の入手方法

本手引きをご希望の方は、JRRN事務局までご連絡ください。なお、JRRN 会員限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録後にお申込下さい。

info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

■ 多自然川づくりポイントブック III 中小河川に関する 河道計画の技術基準・解説(2011.10 発刊)

- ・著者：多自然川づくり研究会
- ・編集：(財)リバーフロント整備センター
- ・発行：公益社団法人 日本河川協会 (2011/10)
- ・価格：¥2,500 (税込)



本書は、多自然川づくりのポイントブックの第3弾として、技術基準改定（平成22年）における河岸・護岸・水際部に関する具体的な解説とともに、ポイントブックIIの内容に見直しを加え再編集されたものです。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
 市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
 所属団体や機関を問わず、河川再生に携わるすべての
 方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

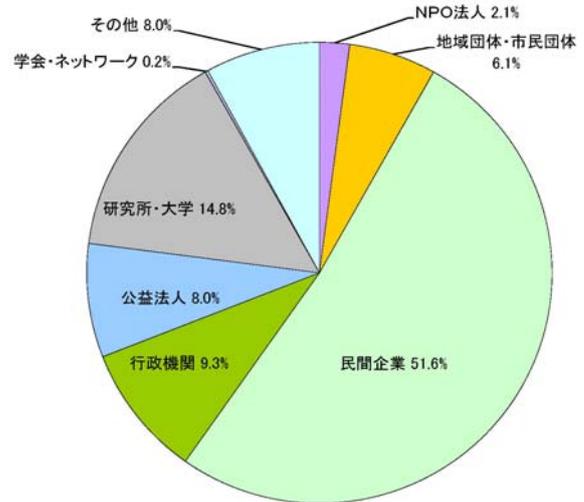
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
 ご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2012年4月30日時点の個人会員構成
 (個人会員数：550名、団体会員数：44団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
 公益財団法人リバーフロント研究所 内
 〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階
 Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

